
ニュースレター・JASESS No.87

社会・経済システム学会 2012.12.1

謹啓 会員諸氏におかれましては、ますますご清栄のことと存じ上げます。

さて、本学会の第31回大会が、11月17日(土)、18日(日)の両日、静岡県立大学において開催されました。大会報告ならびに次回第32回大会の開催要領等についてお知らせいたします。

■第31回大会は好評裡に終了しました

社会・経済システム学会第31回大会は、「復興と再生—安心・安全を拓く社会経済システム—」と題する大会テーマのもと、11月17日(土)、18日(日)の両日、静岡県立大学・国際関係学部で開催され、企画分科会をはじめ各分科会の報告・討論も好評裡に終了しました。

1日目午後の記念講演では、「傾聴調査にみる復興課題」と題して、田中淳先生(東京大学大学院情報学環教授・同学環附属総合防災情報研究センター長)に講演をしていただきました。

学会大会の開催に尽力された静岡県立大学の渡邊聡大会実行委員長をはじめとする大会実行委員の皆様のご協力に深く感謝いたします。

■次期理事監事が決定いたしました。

2012年11月17日(土)開催の総会において次期理事選出の選挙が実施され、得票数上位10名の会員が次期理事に選出されました(以下の10名、五十音順・敬称略)。

赤堀三郎(東京女子大)、喜多一(京都大)、田中秀幸(東京大)、谷本寛治(早稲田大)、高瀬武典(関西大)、高尾義明(首都大)、出口弘(東工大)、徳安彰(法政大)、中山慶子(静岡県立大)、奈良由美子(放送大)、

また11月18日(日)に上記10名の理事による新理事会が開催され、20名の次期理事と2名の次期監事が選任されました(以下の20名および2名、五十音順・敬称略)。

宇野斉(法政大)、鶴飼孝造(同志社大)、奥田栄(人間環境大)、大澤幸生(東京大)、金子泰純(和歌山大)、木嶋恭一(東工大)、小山友介(芝浦工業大)、後藤玲子(茨城大)、竹下公視(関西大)、高橋真吾(早稲田大)、出口竜也(和歌山大)、津田直則(桃山学院大)、長尾史郎(明治大)、野田隆(奈良女子大)、日置弘一郎(京都大)、福田亘(岡山商大)、牧野丹奈子(桃山学院大)、宮本孝二(桃山学院大)、依田博(大阪国際大)、渡邊聡(静岡県立大)

監事(2名)： 廣田俊郎(関西大学)、古村公久(摂南大)

なお、次期理事および次期監事の任期は、2013年4月1日から2015年3月31日までです。

■次期会長をはじめとする新役員予定者が決定しました。

11月18日(日)の新理事会において、次期会長をはじめとする新役員予定者が決定いたしました。

会長：徳安彰(法政大)、副会長：高瀬武典(関西大)、事務局長：高尾義明(首都大)、
会計：宇野斉(法政大)、学会誌編集長：出口弘、
学会誌バックナンバー保管：東工大(出口研)、関東支部長：田中秀幸(東京大)、
関西支部長：喜多一(京都大)

なおウェブ管理は引き続き青山知靖会員(静岡県立大)に担当していただくことになりました。

■第32回大会は、京都産業大学で開催することになりました

大会テーマ：「社会・経済システムのリストラクチャリング」

開催日：2013年10月26日(土)・27日(日)

場所：京都産業大学（京都市北区）

大会実行委員長：大室悦賀

連絡先：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学第1研究室棟801研究室 大室悦賀研究室内

社会・経済システム学会大会実行委員会

Tel & Fax: TEL 075-705-1710 FAX 075-705-1799

E-mail: n.ohmuro@cc.kyoto-su.ac.jp

http://www.kyoto-su.ac.jp/outline/campus/cam_map.html

【大会テーマ趣旨説明文】

2008年のリーマンショック、2011年の東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故は、日本の社会・経済システムに多大な影響をもたらした。それらは政府や地方自治体のあり方や対応に大きな課題を残し、あわせて事業の継承、雇用の確保、企業と社会の関係といった企業システムについても多くの課題を投げかけている。

一方で、東日本大震災では、企業の社会貢献や社会的事業、ならびに社会的課題の解決を目的とする株式会社(ソーシャル・ベンチャー)の台頭がクローズアップされ、企業システムの新たな側面も見え始めた。また、震災後、政府もこのような企業やNPOの動きを積極的に支援している。さらに地方自治体の重要性も改めて重視されるようになってきている。このように大震災はネガティブな側面のみならず、ポジティブな側面をも生み出すこととなった。

このような状況にあつて、社会との関係性の中で企業システムのあり方を再考することのみならず、政府、地方自治体、地域、NPOを含めた社会・経済システムのあり方を再考すべき時期にきている。とくに既存の社会・経済システムと折り合いをつけながら、市場や地方を中心とした新しい社会・経済システムへの転換が求められている。また、マグニチュード7級の首都直下型地震や南海トラフ地震などが想定される中で、どのような社会・経済システムが必要なのかなど、求められる課題も多い。このようなニーズや問題を解決できる社会・経済システムにリストラクチャリングすることが求められている。

本学会は過去数年間に、「復興と再生」、「イノベーションと社会・経済システム」、「グローバルゼーションにおける社会・経済システムの構想」、「持続可能な社会・経済システムと地域総合デザイン」を大会テーマとして取り上げ、活発な議論を積み上げてきた。それらを踏まえ、企業システムの再考、社会・経済システムのリストラクチャリングを構想することは本学会が担う重要な役割と考える。

本大会では、企業システム、行政、地域、NPOを含む社会・経済システムについて、多様な観点からの理論的、実践的な研究発表と盛んな議論が行われることを期待する。

1. 報告をご希望の方は、所属機関・氏名・報告論題・報告要旨(400字~600字程度)を**2013年5月31日必着**で新事務局(首都大学東京:事務局長 高尾義明)まで必ずメールにてお送りください。
送り先: office@jasess.jp
ご報告の採否は2013年7月頃にご通知できると思います。
2. ご報告頂くことになった際には、**2013年9月20日(必着)**でA4版×**2枚ないし4枚(偶数枚のみ)**の報告要旨原稿をお願いすることになりますので、あらかじめご了承ください。

■会費納入のお願い

会員各位のご協力をおもひまして、会費納入状況も良好でご同慶の至りです。今年度及び昨年度以前の会費が未納の会員には、専用払込票(ヤマトフィナンシャル払込用紙)にてご納入のほどよろしくお願ひいたします。

■変更届のお願い

ニューズレター等配布物の返送が相次いでおります。送付先変更がございましたら速やかに下記メールアドレスまでお知らせくださいますようお願いいたします。

事務局（放送大学 教養学部 奈良研究室、E-mail : kawasys@ouj.ac.jp）

学会ホームページに諸届け（変更、入会、退会）の様式がありますので、そちらもご覧ください。

<http://jasess.jp/info/admission.html>

■新入会員紹介

次の方々の入会が11月17日（土）の総会において承認されました。

（敬称略）

	氏名	所属	専門分野	区分
1	ミゾブチ タイチ 溝渕太一	早稲田大学大学院 社会学コース	社会システム論 健康論	学生
2	リュウ ビ 劉 薇	麗澤大学大学院	環境政策論	学生
3	ムラハラヒデキ 村原英樹	上智福岡中学高等学校	応用数学	一般
4	フジタモユキ 藤田智行	慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	システムデザイン・マネジメント	学生
5	カンケモトシ 菅家元志	慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	システムデザイン・マネジメント	学生
6	スキヤマヒロコ 杉山紘子	慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	システムデザイン・マネジメント	学生
7	コバヤシシヨウヘイ 小林勝平	同志社大学 社会学部 社会学研究科	社会学	学生
8	ワタナベハルカ 渡部春佳	東京大学大学院 学際情報学府	社会情報学	学生
9	ミスイユウキ 味水佑毅	高崎経済大学	交通論・ロジスティック、 観光政策論	一般
10	タナカミツル 田中充	法政大学 社会学部	環境政策	一般
11	ヒグチカズキヨ 樋口一清	信州大学 イノベーション研究支援センター	経済学(イノベーション研究)	一般
12	シオミツ ノリコ 塩満典子	(独) 科学技術振興機構	生物学、公共政策学	一般
13	マエノ タカシ 前野隆司	慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科	ヒューマンシステムデザイン	一般
14	リ ハク 李 皓	京都情報大学院大学	経営経済のエージェントベース シミュレーション、 ゲーミングシミュレーション	一般

■昨年度会計報告および今年度予算

2012年11月17日(土)の総会で、昨年度の会計決算について小幡・廣田両会計監事の監査報告書とともに事務局から報告があり承認されました。また、今年度予算案についても事務局より資料に基づき報告があり総会で承認されました。

2011年度収支決算報告書(2011年4月1日～2012年3月31日)

1.収支決算書(2011年4月1日～2012年3月31日)

支 出		収 入	
通信費	159,940	会費	1,719,000
消耗品費	141,212	一般会員	(1,512,000)
アルバイト謝金	250,800	学生会員	(144,000)
大会準備費	45,325	利子	4,486
大会運営費	651,524	ゆうちょ銀行(普通)	(325)
理事会費	20,400	みずほ銀行(普通)	(104)
機関誌編集委員会費	731,325	定額貯金	(4,057)
(財)日本学術協力財団分担金	50,000		
		機関誌バックナンバー販売	48,655
関東部会	0		
関西部会	6,000		
(学会ウェブサイト開設費)	83,644		
当期支出小計	2,140,170	当期収入小計	1,772,141
次期繰越金	4,906,289	前期繰越金	5,274,318
合計	7,046,459	合計	7,046,459

2.貸借対照表(2012年3月31日現在)

借 方		貸 方	
現 金	0	次期繰越金	4,906,289
振替貯金	1,397,195		
郵便貯金(普通)	1,133,856		
郵便貯金(定額)	2,080,000		
銀行貯金(普通)	295,238		
合計	4,906,289	合計	4,906,289

2012年度収支予算案(2012年4月1日～2013年3月31日)

支 出		収 入	
通信費	150,000	会費収入見込	1,500,000
消耗品費	150,000	一般会員	(1,400,000)
アルバイト謝金	250,000	学生会員	(100,000)
大会準備費	90,000	機関誌バックナンバー販売	30,000
プログラム委員会費:60,000			
プログラム等印刷費:30,000			
大会運営費	500,000		
理事会費	80,000		
機関誌編集委員会費(第33号)	600,000		
(財)日本学術協力財団分担金	50,000		
IFSR会費(2010, 2011, 2012年分)	31,000		
関東部会	30,000		
関西部会	30,000		
当期支出小計	1,961,000	当期収入小計	1,530,000
予備費	4,475,289	前期繰越金	4,906,289
合計	6,436,289	合計	6,436,289